



11-4
八王子学

はちおうじ地域学シリーズ8「八王子ゆかりの人物像」 ～近世編その2ー八王子千人同心の人びとー～



会場

学園都市センター
※ P87 参照

提供

八王子学園都市大学

曜日・回数

火曜日 3回

時間

13:30～15:00

受講料

2,500円

定員

30名

実施日

11月 14日

12月 5日、12日

備考

八王子千人同心は戦国大名武田氏旧臣の流れを汲む江戸幕府唯一の在郷武士集団です。彼らは江戸時代中期から幕末にかけて八王子を拠点に多摩地域の政治や文化、さらに幕府政治などにも関わって活躍をしていました。

今回は、この八王子千人同心の人物にスポットをあてていくことにします。

取上げる主な人物としては、蝦夷地開拓や地誌『新編武蔵国風土記稿』編纂事業に従事した原半左衛門(1747～1827)をはじめ、同じく地誌編纂に関わり自ら多摩地域の地誌『武蔵名勝図会』を著わした植田孟縉(1757～1843)、『桑都日記』という千人同心の歴史書を執筆した塩野適斎(1775～1847)、海

防の方策を論じ『献芹微衷』を著述した松本斗機蔵(1793～1841)、さらに幕末の長州出兵に赴き江戸幕府滅亡後に日光明渡しの責任を取って切腹した石坂弥次右衛門(1809～1868)、江戸幕府から明治政府へ政権が移行する政治的空白期に八王子地域の治安維持に携わっていた丸山惣兵衛などです。

これらの人びとが生きた時代と共に、彼らが多摩地域の政治・文化に果たした役割などについて3回にわたって具体的にみていくことにします。

- 第1回 八王子千人同心の人びと(1)
- 第2回 八王子千人同心の人びと(2)
- 第3回 八王子千人同心の人びと(3)

受講生への
メッセージ



八王子千人同心は武士集団として八王子を中心に江戸時代中期以降、広く多摩地域に居住しており、当時、知識層として政治や文化の面で活躍をしていました。今回はこの八王子千人同心の主要な人物にスポットをあて「はちおうじ地域学」にアプローチしたいと思います。

【講師】馬場 憲一(ばば けんいち) 法政大学大学院 人間社会研究科 教授 ……………

(経歴・専攻) 八王子市生れ。法政大学大学院人文科学研究科修了。東京都教育庁学芸員を経て、現在、法政大学大学院教授。博士(文学)。研究の関心領域は、地域の歴史と文化遺産を活かすための文化環境政策。
(主要編著書)『近世都市周辺の村落と民衆』(雄山閣出版)、『多摩の代官』(共著 けやき出版)、『八王子千人同心史』(共著 八王子市教育委員会)、『大久保長安に迫るー徳川家康の天下を支えた総代官ー』(共著 揺籃社)、『古文書にみる武州御嶽山の歴史』(共著 岩田書院)、『高尾山薬王院文書』『高幡山金剛寺文書』『武州御嶽山文書』(いずれも共編著 法政大学) など。